

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)(公衆)〇四七二(22)七二〇七

85年度予算
の成立と
GNP1%枠



国鉄「分割・民営化」阻止、三里塚二期善工粉砕!

歯止めをはずした大軍拡と「国家改造」運動

中曽根政治の行きつく先は戦争と暗黒

一般会計五十二兆四千九百九十六億円を中心とする一九八五年度予算が四月五日参院本会議可決をもって成立した。その特徴は、①今年度も十一兆六千八百億円という巨額の国債発行を続けることにより、今年度末には国債残高は百三十三兆円という膨大な額にふくれ上っている。そして、その利払いのために十兆二千二百四十二億円というこれまた巨額の国債費(対前年度比で十一・七%の急増)今後この傾向は雪だるま式に強まっていく(を組まねばならないという完全にサラ金地獄化した破綻財政)体制的危機となっている。そして、②医療費の本人負担大巾増にみられるように今年度も福祉・教育・地方自治体補助関連予算を大巾カットしたうえに、米価・国鉄運賃の二年連続値上げを強行し、(大型間接税導入は見送られたとはいえ、早晚、増税方針への転換は時期の問題とまでされた)大衆収奪路線を一層強めている。③一般歳出も対前年比三億円減で押さえ、二十一兆円弱という財政投融资も31年ぶりにマイナスに転じるという今予算の中で、④またしても「防衛費」のみが前年度の伸び率を上回る六・九%増という5年連続の大突出をとげ、対GNP比は〇・九九七%となり、「一%枠」までにおさめられ、防衛費と並んで唯一「聖域」扱いで「三里塚空港の二期関連予算」が政府原案通り二十二億円がそのまま盛り込まれている。

この予算内容とその決定過程で明らかにされていった中曽根政治の目指している道とはどういうものかをしっかりと見ぬき、「手おくれ」にならないうちに一日も早く反動中曽根打倒を85年の闘いの基軸として立ち立てていかねばならない。

遂に「対GNP比一%枠」を事実上突破

決定的に重大なことは、中曽根は従来より「足かせ」と憎んできた「一%枠」の制限を今予算をもって遂に取り払い、「戦後政治」からはめられていた諸制約を「総決算」し、いよいよ中曽根の思うがままの「国家大改造」戦争国家づくりへと一気に突走ろうとしているという点である。

すなわち、対前年度比で「六・九%増」の「三兆一千三百七十一億円」という大軍拡予算は、人勸実施に伴う自衛隊人件費の増加をもって今年度中に「一%枠」を二百数十億円も突破することは公知の事実である。むしろ積極的にそのように仕組んできたのである。中曽根は終始一貫「成り行きとして突破となることは仕方がない」と国会答弁で開き直り、中曽根の私的諮問機関である「平和問題研究会」は「一%枠そのものを見直すべきだ」と主張している。そして現に、中曽根の指示で具体的策定過程に入っている「五九中業」では、最初から「枠」などとはばらばら一・一%一・一五%を見こんで策定されていっているのである。

「一%枠」突破とは、①直接的には軍事費の歯止めなき増大、戦争予算化へ道を開くのみならず、②全ての分野にわたって「憲法の枠」を既成事実でどしどし踏み破り、そして「憲法」そのものを改悪する、という危険極まりない中曽根政治の本性への公然たる着手を意味している。

このまま行ったら必ず戦争に引ずり込まれてしまう。

戦争をやるための「国家改造」へ突進

このような大軍拡戦争準備に全力をあげる一方で、実際に戦争をやりぬける人間づくり・体制づくりをむけて中曽根は今全力をあげている。

攻撃組織破壊で強固な団結の家族員組合全

◎ 2月11日、中曽根は歴代首相としてはじめて公式に紀元節式典に出席し、天皇のもとに愛国と団結を訴えるあいさつをのべ、宇佐美同盟会長の音頭で「天皇陛下バンザイ」を唱和している。

◎ 国会冒頭の所信表明をはじめことあるごとに強調してきたように、中曽根は「行政・財政・教育」の三大改革に臨調行革攻撃に全力をかけてきた。国鉄日教組・地方自治体・社会党・労働組合等、更には反戦・反核意識や戦後の民主的権利や制度、福祉等々の全てが中曽根にとっては解体と反動的再編の対象となった。国鉄労働運動解体攻撃に象徴されるように、マスコミを使って国民を反動的に煽動し、闘う者を「社会の敵」よばわりして袋だたきにしていくことを通して全社会的な総転向・総屈服状況をつくりだし、支配者の意のままに動く体制づくりを急ピッチで進めているのだ。太平洋戦争に向っていった大政翼賛会運動・産報化運動が今また中曽根のもとで一大国民運動「国家大改造」運動としておし進められていることを危機意識をもって真正面から見すえ、全力でこれと闘わなければならない。

総屈服を拒否し、戦争への道をうちくたく三里塚―国鉄決戦

中曽根が、なぜこれほどまでに、国鉄労働運動解体再編と三里塚二期強行に反対同盟と三里塚勢力の解体・絶滅に異常なまでの執念をもやしているのかの理由はここにある。「不屈・非妥協・実力闘争」を掲げて闘う人民・労組・団体が巖としてがんばり続けることは中曽根の戦争への道をはばみ、逆に中曽根の生命とりに転化してしまふことを何よりも恐れているからに他ならない。戦争と反動の時代をはね返すため、唯一の勝利のカギは三里塚―国鉄決戦の爆発で反動中曽根を打倒しよう。